

2月28日(金)には高校卒業式、3月19日(木)には3学期終業式と中学校卒業式が行われました。また、終業式の前に「協創賞」の表彰式が行われ、最優秀賞(個人4、団体1)と優秀賞(個人2、団体7)の表彰を行いました。

その表彰式では、受賞者(団体は代表生徒)が受賞の喜びと活動の取り組み内容、今後への抱負などを述べました。それぞれが事前準備をしてスピーチに臨みましたが、「協創賞」は主に自主的な活動を認められて与えられるものだけに、素晴らしい内容ばかりでした。中には、活動内容の幅を広げたり、新たな展開を示したりする生徒もあり、次年度に向けて、他の生徒の刺激になったのではないかと思います。多くの生徒が喚起され、「協創賞」を目指して欲しいと願っています。

(右は、受賞者が表彰後にスピーチをしている様子)



建学の精神を体す

中学校卒業式の式辞で、次のようなお話をさせていただきました。

「1号館近くにある早咲きの『河津桜』が例年であれば開花しているのですが、昨日段階でその景色を見られませんでした。ところが、今朝、一輪が花開いていました。すごいですね、運なのではないでしょうか。みなさん、持っていますよ。」

中学校4期生・55名のみなさん、卒業おめでとうございます。

入学して間もなく、三滝少年自然の家で行われた宿泊研修で元気よく活動していたみなさんが、昨年10月の台湾への研修旅行では随分と成長した姿を見せてくれました。そして、今、こうしてみなさんの凛とした姿を前にして感慨深いものを覚えます。とても立派になりましたね。

私が本校とのご縁をいただいて、もう7年の月日が経ちました。私は、『報恩感謝・実践』という建学の精神に出合えて、本当に良かったと思っています。それには理由があります。私のこれまでの人生を振り返ったとき、節目節目に、私を支えてくれた人がそこにいて、私に生き方のヒントを与えてくれた人がいました。私はその人たちに感謝し、その人たちの心意気に報いたいと思った、それが『報恩感謝・実践』だからなのです。

例えば、私が中学校3年生のとき、担任の先生のようになりたいと決意し、その通り教師になったこと。東京の大学卒業後、実家・岩手に戻らず、広島に誘われ、広島に骨を埋める覚悟を決めたこと。数えきれないほどの出会いがありました。

人との出会いやご縁、この人にお陰様でしたという感謝の気持ちを示したいと思ったことで、私は実践へと突き動かされてきました。

さて、みなさんはどうでしょうか。ご家族の方はもちろんのこと、友人と呼べるような人の存在、これまでお世話になった先生方の存在、振り返っ



(上は、卒業証書授与の様子。)

てみると、自分を支えてくれた人たちが大なり小なり必ずいるはずです。今日は卒業式。お世話になった人たちに『ありがとうございます』の一言を添えて、感謝の気持ちを伝えましょう。さらには、時を見て、感謝の気持ちを日々の実践に変えていきましょう。

当たり前のことですが、人間は一つの人生しか生きられません。その人生の中で、喜びもあれば、死を覚悟するほどの絶望にうちひしがれることもあるでしょう。そんなとき、すぐそばに私を支えてくれる人がいたならば…、と思うのは当然のことなのです。人間は思うほど強くはありません。実に弱い生き物なのです。すなわち、誰かを頼るべきというか、自然と寄り添い寄り添われるようになっているように思うのです。

『報恩感謝・実践』、換言し、『利他の心』とは、お互いが理解し合い、この人の為という関係性を築き合っていく、その人の心意気に感動して損得なく実践することではないかと思います。

結びに、みなさんがこの変化の激しい時代を生き抜くために、4月からの高等学校での学びを経て、自分の特性と能力を知り、自ら考え、好奇心を絶やさず、情熱を持って様々なことにチャレンジすることを願って式辞といたします。」